

# 大分短期大学 情報公表 1

(公表日：平成23年9月30日)

## 1. 教育研究上の基礎的な情報

### (1) 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的について

学科名	教育研究上の目的
園芸科	<p>本学の教育目的は、学則の第1条に示すとおり、「高等普通教育の基礎の上にさらに広い一般教育と専門的学識を修め、深い知識と豊かな人間性を養い、もって国家及び地域社会の発展に貢献しうる社会人の育成を目的とする」と定めている。具体的には、農業および園芸が人間生活と国家・社会の維持・発展にとって不可欠な産業であることを理解し、将来、次のような分野で活躍を志す人材の育成をすることとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安心・安全な食料の生産、加工、販売に従事する人</li> <li>○ 人間の生活の質（QOL）の向上に有効な生物生産とその利用・加工法の開発に従事する人</li> <li>○ 地域社会の健全な環境の保全と構築および活性化に有効な生産物の再発見と開発に従事する人</li> </ul>

### (2) 専任教員数について

平成23年5月1日現在

学科・専攻名	専任教員数				設置基準で定める教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	准教授	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
園芸科	4	2	3	9	7 (3)		0	1	
(小計)	4	2	3	9	7 (3)		0	1	
〔ロ〕						2 (1)			
(合計)	4	2	3	9	7 (3)	2 (1)	0	1	

#### 〔注意〕

1. 上表の〔イ〕とは短期大学設置基準第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める教員数をいう。
2. 上表の〔ロ〕とは短期大学設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める教員数をいう。
3. 上表の〔イ〕および〔ロ〕の欄の（ ）は、短期大学設置基準第22条別表第1の

イの備考第1号に定める教授数。

4. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。
5. 上表の〔ハ〕とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員（事務職員を除く）をいう。

### (3)校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

#### (3)－1 校地・校舎について

校舎・校地一覧表

平成23年5月1日現在

	収容定員	校舎			校地			備考
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異	
大分短期大学	80人	2000 m <sup>2</sup>	2209 m <sup>2</sup>	209 m <sup>2</sup>	800m <sup>2</sup>	1894 m <sup>2</sup>	1094 m <sup>2</sup>	
併設								
その他								
計	80人	2000 m <sup>2</sup>	2209 m <sup>2</sup>	209 m <sup>2</sup>	800m <sup>2</sup>	1894 m <sup>2</sup>	1094 m <sup>2</sup>	

※基準面積とは短期大学設置基準等、各学校の設置基準で定める面積とします。

短期大学設置基準第31条の規程による短期大学の基準面積（基準面積を算出する計算式を含む）は農学関係100人までの場合は2000 m<sup>2</sup>である。本学の場合、短期大学専用の校舎面積2209 m<sup>2</sup>、本学が保有する校舎の面積は設置基準の規定を充足している。

また校舎は授業や学生生活のために常に清掃が行われ、学内全体は清潔な環境である。修理や保全の対応も早い。

短期大学設置基準第30条の第1項「短期大学における校地の面積（附属施設用地及び寄宿舍の面積を除く）は、学生定員上の学生一人当たり十平方メートルとして算定した面積とする。」から次の通り計算した(校地の面積＝学生定員数(＝収容定員)×10m<sup>2</sup>)。学生定員数(＝収容定員)＝園芸科収容定員80名×10m<sup>2</sup>＝800 m<sup>2</sup>

本学の校地基準面積は、収容定員80名で算出計算式により、800 m<sup>2</sup>となるこの基準に対して本学の校地面積は表のとおり、1894 m<sup>2</sup>であり表に示すとおり、設置基準の規定を充足している。

#### (3)－2 情報機器等の整備について

パソコン室は整備されているが、学内LANは整備されていない。教室の使用状況に応じて、液晶プロジェクター、テレビ、ビデオデッキ、DVDプレーヤー、スライド映写機、OHC、OHP、マイク、スピーカーなどを適切に設置している。授業用の機器・備品は庶務係が把握し、日々の使用・点検は教務係に依頼している。

コンピュータ台数と機種

平成23年5月1日現在

教具名	台数
コンピュータ デスクトップ 東芝 PC	26台
レーザープリンタ A3	3台
コンピュータ デスクトップ マッキントッシュ	5台
レーザープリンタ A4	1台

**(3)－3 校地、校舎の安全性、障害者対応、運動場、体育館、学生休息場所等について**  
(校地・校舎の安全性)

土地・建物上の安全性 定期的に点検を実施し、危険箇所は補修している。

防犯上の安全性 短期大学が保有する校地と校舎は学生や教職員の安全確保に対して、警備会社の警備員による巡回など一応整っている。

(障害者への対応)

学園生活上支障のある障害者の入学が現在までいない。また、校舎が40年以前に建てられていることもあり、障害者に対応した設備を施しがたい現状にある。

(運動場・体育館)

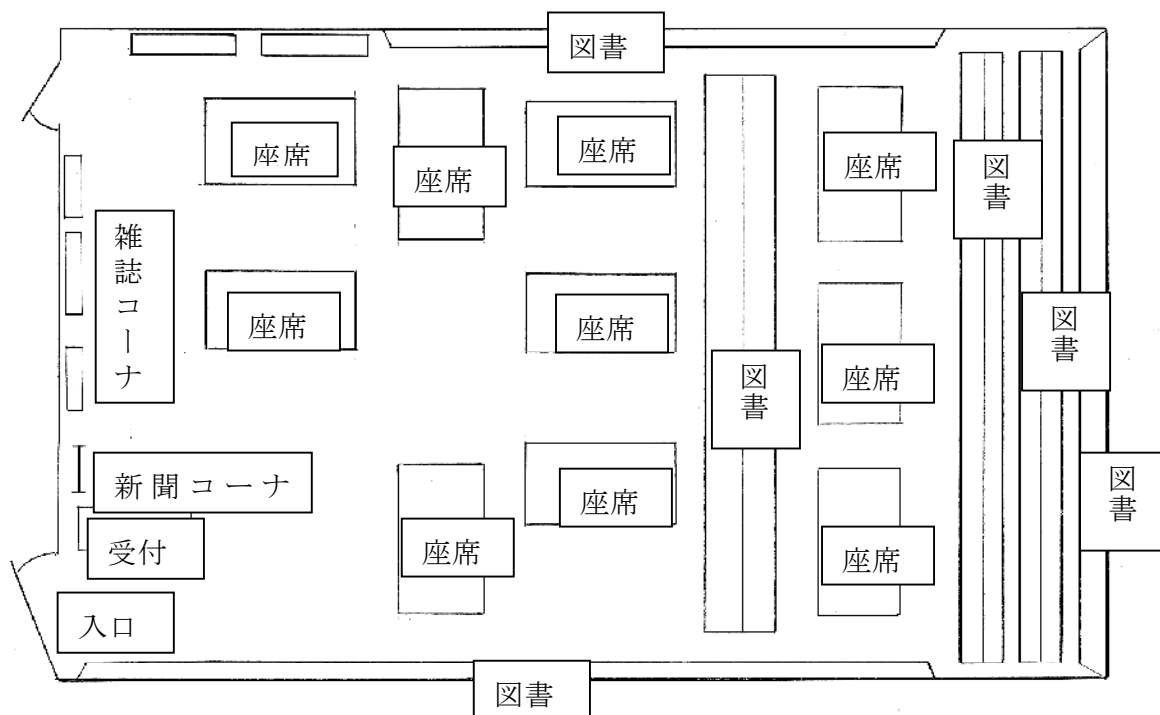
平松学園の医療系各種専門校と大分東明高校、向陽中学校と共用している。

**(3)－4 図書館・学習支援センターについて**

本館5階のうち3階、5階部分に図書館スペースを設けている。延床面積126.8㎡座席数は60席、利用者用コンピュータは2席、学習室は7席である。

図書館の利用者用パソコンは蔵書検索を行えるようにしている。また、パソコンではインターネットの利用ができ、学生研究や就職活動の利用も多い。

図書配置、座席配置は図の通りである。



(4) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用

平成23年度現行 (単位 円)

	一年次		二年次	
	入学時	後期	前期	後期
入 学 金	240,000	—	—	—
授 業 料	285,000	285,000	285,000	285,000
施 設 費	65,000	65,000	65,000	65,000
演 習 費	80,000	80,000	80,000	80,000
小 計	670,000	430,000	430,000	430,000
合 計	1,960,000			

\*この他、教科書、実習器材、オリエンテーションでの宿泊費等の代金が必要。平成22年度は80,000円程度、また、希望により、各種資格取得や公務員受験のための準備講座を受ける場合は、その都度テキスト、教材などの実費が必要。

\*入学辞退者は3月31日までに申し出れば入学金以外の学納金は返還する(入学辞退願の提出が必要)。

## 2. 修学上の情報等

### (1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績

学科	職名	氏名	学歴(学位)	専門分野
園芸科	学長 (教授)	樋口春三	新潟大学農学部(農学博士)	花卉園芸学
			業績 (著書) <ul style="list-style-type: none"> <li>・観賞園芸～花きの生産と利用～((社)全国農業改良普及協会 1999)</li> <li>・先進型アグリビジネスの創造～新しい成長分野「農業」への企業企画～(ソフトサイエンス社 1999)</li> <li>・切花の鮮度保持マニュアル(株流通システムセンター 1996)</li> <li>・なんでもわかる花と緑の事典(六曜社 1996)</li> <li>・園芸の世紀(1)花を作る(八坂書房 1995)</li> <li>・農業技術体系・花卉編3(農山魚村文化協会 1995)</li> <li>・花の名前ポケット事典(日本放送出版協会 1995)</li> <li>・自然のふしぎ 花・園芸の図群図鑑(学習研究社 1995)</li> <li>・高等学校農業科 草花 教師用指導書(農山魚村文化協会 1995)</li> <li>・高等学校農業科 草花(農山魚村文化協会 1994)</li> <li>・新版 中学国語 I (教育出版 1993)</li> <li>・Biotechnology in agriculture and Forestry Vol.20 High-Tech and Micropropagation (Springer-Verlag Berlin,Heiderberg 1992)</li> </ul> (学術論文等) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼす影響(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・神奈川県下の福祉施設、医療施設等における健康法、療法としての園芸の活用に関する調査研究(園学雑70別1 2001)</li> <li>・山梨県下の福祉施設、医療施設等における健康法、療法としての園芸の活用に関する調査研究(園学雑70別1 2001)</li> <li>・埼玉県下の福祉施設、医療施設等における健康法、療法としての園芸の活用に関する調査研究(園学雑70別1 2001)</li> <li>・<i>Kalanchoe blossfeldiana</i> Poelln.の in vitro と in vivo における光周期的花成反応の比較(園学雑69 2000)</li> <li>・宿根スイートピーの開花に及ぼす日長の影響(園学雑69 2000)</li> <li>・スイートピーの自生地における生育開花と系統ならびに品種分化(日本農業教育学会誌 第31巻 2000)</li> <li>・<i>Kalanchoe blossfeldiana</i> Poelln.の in vitro 開花に及ぼす品種および培養環境の影響(園学雑68 1999)</li> <li>・<i>Celosia argentea</i> var. <i>cristata</i> における in vitro flowering(東京農大総研</li> </ul>	

		<p>紀要8 1998)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校園の花壇苗用草花としてのメランポジウムの生育開花に及ぼす光周期と温度の影響(日本農業教育学会誌 第28巻 1998)</li> <li>・シクラメン栽培における給水方法が葉枚数増加に及ぼす影響(日本農業教育学会誌 第28巻 1998)</li> <li>・The effect of concentrated sulfuric acid treatment on the seed germination of <i>Lathyrus latifolius</i>.(Combined Proceedings of the International Plant Propagators' Society. 47:673-675 1998)</li> <li>・シクラメンの直接定植法における給水サイクル、施肥および用土が開花に及ぼす影響(農業生産技術管理学会誌 5(2):7-11 1998)</li> <li>・Effect of cytokinins on multiplication and rooting of micropropagated shoots of <i>Spathiphyllum</i> (Combined Proceedings of the International Plant Propagators' Society. 46:736-742 1997)</li> <li>・Accumulation of benzyladenine in green globular bodies in a micropropagation system for <i>Pteris ensiformis</i>. (International Plant Propagators' Society. Combined Proceedings.Vol.45 665-667 1995)</li> <li>・Role of backward part of growing pollen tube in the cut-style of <i>Lilium longiflorum</i> Thunb.(Plant Cell Incompatibility Newsletter 28:1995:3-6)</li> <li>・Effects of medium pH on shoot growth and flowering of <i>Torenia</i> intermodal stem segments in vitro(Acta Horticulture393:135-142 1995)</li> </ul> <p>(表彰)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切り花ギクの周年供給体制確立のための技術開発(松下幸之助花の万博記念賞 1994)</li> <li>・The year-round production system in phalaenopsis by means of hybrid functional system(Nagoya International Orchid Congress '90 奨励賞 1990)</li> <li>・プリムラおよびペチュニアの自家不和合性の生理と抑制に関する研究(園芸学会賞 1974)</li> </ul>																											
園芸科	教授	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:30%;"></td> <td style="width:35%;">大分大学教育学部 (教育学士)</td> <td style="width:35%;">農業教育学</td> </tr> <tr> <td>業績</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>(著書)</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">・学校園の観察実験便利帳(農山漁村文化協会・日本農業教育学会)</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">・やさしい家庭園芸(大分短期大学)</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">・続やさしい家庭園芸(大分短期大学)</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">・続々やさしい家庭園芸(大分短期大学)</td> </tr> <tr> <td>(学術論文等)</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">・ミントマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼ</td> </tr> </table>		大分大学教育学部 (教育学士)	農業教育学	業績			(著書)				・学校園の観察実験便利帳(農山漁村文化協会・日本農業教育学会)			・やさしい家庭園芸(大分短期大学)			・続やさしい家庭園芸(大分短期大学)			・続々やさしい家庭園芸(大分短期大学)		(学術論文等)				・ミントマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼ	
	大分大学教育学部 (教育学士)	農業教育学																											
業績																													
(著書)																													
	・学校園の観察実験便利帳(農山漁村文化協会・日本農業教育学会)																												
	・やさしい家庭園芸(大分短期大学)																												
	・続やさしい家庭園芸(大分短期大学)																												
	・続々やさしい家庭園芸(大分短期大学)																												
(学術論文等)																													
	・ミントマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼ																												

		<ul style="list-style-type: none"> <li>す影響(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・西日本各県の農業系高校の現状(日本農業教育学会誌 第38巻別号)</li> <li>・園芸療法の現状と課題(日本老年医学会雑誌42巻5号、2005)</li> <li>・介護従事者および学生における園芸療法体験の意識調査(日本農業教育学会誌 第34巻別号)</li> <li>・農業の発展方向を自ら開拓する能力を備えた学生の教育(日本農業教育学会誌 第34巻別号)</li> <li>・B×Lucerna.hort.の雌花に対する2,4Dの落花防止効果について(園芸学会発表要旨集(その他、1984))</li> <li>・カーネーションの切花保存剤に関する一考察(大分短期大学紀要第8号)</li> <li>・中国・四国・九州各県の農林業系高校の現状(日本農業教育学会誌 第38巻別号)</li> <li>・高崎山におけるニホンザルの食飼植物の分布と現存量の研究(京都大学霊長類研究所年報(大学・研究所等紀要 1985)15,62/)</li> <li>・高崎山生息ニホンザルの自然林内における採食量の調査(京都大学霊長類研究所年報(大学・研究所等紀要、1987)17,65/)</li> <li>・幼稚園児の農業体験—米作り(代かきと田植え)—(日本農業教育学会誌(2004)第35巻別号)</li> <li>・豊後ウメに関する研究(予報)(園芸学会雑誌(1991)60/2)</li> </ul>	
園芸科	教授	九州大学農学部農学科 (農学士)	作物学
		業績 (学術論文等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼酎醸造適性をもった二条大麦‘ニシノホシ’の特性(大分農技センター研報29号 1999年3月)</li> <li>・薬培養法を利用した水稻新品種「大分3号」の育成(育雑44号別冊2 1994年10月)</li> <li>・良質裸麦品種イチバンボシの特性と栽培法(大分農技センター研報24号 1994年3月)</li> <li>・大分県における中生良食味品種ヒノヒカリについて(大分農技センター研報22号 1992年3月)</li> <li>・麦類の周年栽培(九農研43号 1981年7月)</li> <li>・水稻、麦種子お増殖体系とその問題点(大分県農林関係試験研究機関合同シンポ講演要旨集8号 1990年12月)</li> <li>・稲麦種子の低温貯蔵に関する試験(第4報) 稲種子の貯蔵に伴う発芽性の変化(日作九支報49号 1982年12月)</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲麦種子の低温貯蔵に関する試験(第3報) 稲貯蔵種子の水苗代および箱育苗における出芽について(日作九支報46号 1979年11月)</li> <li>・稲麦種子の低温貯蔵に関する試験(第2報) 稲種子の貯蔵に伴う発芽性の変化(日作九支報45号 1978年12月)</li> <li>・稲麦種子の低温貯蔵に関する試験(第1報) 貯蔵期間と種子の寿命について(九農研38号 1976年7月)</li> <li>・ミニトマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼす影響(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> </ul> <p>(表彰)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消を目指した水稻、麦類品種の開発と普及(全国農業関係試験研究場所長会研究功労賞 2004年5月)</li> </ul>		
園芸科	教授	石井 實	<table border="1"> <tr> <td>鹿児島大学農学部 (農学博士)</td> <td>花卉園芸学</td> </tr> </table> <p>(学術論文等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カトレヤの組織培養に関する研究、3 褐変前駆物質の季節的消長と活着率について(園学雑49(1):127-131 1980)</li> <li>・New phenolic compounds from Cattleya trianaei and their biological activity.(Phytochemistry 18:1211-1213 1979)</li> <li>・カトレヤの組織培養に関する研究、2 組織培養の褐変防止法について(園学雑48(2):199-204 1978)</li> <li>・カトレヤの組織培養に関する研究、1 フェノール物質の分離同定及び同物質の生物活性について(九大農学芸誌第31巻23号:99-105 1976)</li> <li>・ミニトマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼす影響(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> </ul>	鹿児島大学農学部 (農学博士)	花卉園芸学
鹿児島大学農学部 (農学博士)	花卉園芸学				
園芸科	准教授	長岡 寿和	<table border="1"> <tr> <td>東京農業大学農学部造園学科 (農学士)</td> <td>造園学・果樹園芸学</td> </tr> </table> <p>業績</p> <p>(学術論文等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼす影響(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・西日本各県の農業系高校の現状(日本農業教育学会誌 第38巻別号)</li> <li>・幼稚園児の農業体験—米作り(代かきと田植え)—(日本農業教育学会誌(2004)第35巻別号)</li> </ul>	東京農業大学農学部造園学科 (農学士)	造園学・果樹園芸学
東京農業大学農学部造園学科 (農学士)	造園学・果樹園芸学				

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護従事者および学生における園芸療法体験の意識調査(日本農業教育学会誌 第34巻別号)</li> <li>・農業の発展方向を自ら開拓する能力を備えた学生の教育(日本農業教育学会誌 第34巻別号)</li> </ul>	
園芸科	准教授	摺崎 宏	東京農業大学農学部農学科 (農学士)	野菜園芸学・生物工学・土壌肥科学
			業績 (著書) <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業技術大系花卉編(農山漁村文化協会)</li> </ul> (学術論文等) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼす影響(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・西日本各県の農業系高校の現状(日本農業教育学会誌 第38巻別号)</li> <li>・幼稚園児の農業体験—米作り(代かきと田植え)—(日本農業教育学会誌(2004)第 35 巻別号)</li> <li>・介護従事者および学生における園芸療法体験の意識調査(日本農業教育学会誌 第34巻別号)</li> <li>・農業の発展方向を自ら開拓する能力を備えた学生の教育(日本農業教育学会誌 第34巻別号)</li> <li>・未熟胚由来カルスによるストックの増殖(第3報)再生植物体の生育開花特性(園芸学会雑誌 第65巻別冊2)</li> <li>・未熟胚由来カルスによるストックの増殖(第2報)植物体形成、馴化に及ぼす寒天2段階培養法における第1培養期間の影響(園芸学会雑誌 第65巻別冊1)</li> <li>・未熟胚由来カルスによるストックの増殖(園芸学会雑誌 第64巻別冊2)(特許)</li> <li>・ストックの組織培養苗の形成方法(特許第2849990号)</li> <li>・ストックの不定胚作出方法及び増殖方法(特許第2963301号)</li> </ul>	
園芸科	助教	宮原佳代	九州大学農学部 同大学院農学研究科園芸学講座修士課程修了(農学修士)	花卉装飾学・花卉園芸学
			業績 (学術論文等) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼす影響(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> </ul>	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・大分県学生フラワーデザイン展(大分短期大学研究紀要 第11号)</li> <li>・西日本各県の農業系高校の現状(日本農業教育学会誌 第38巻別号)</li> <li>・幼稚園児の農業体験—米作り(代かきと田植え)—(日本農業教育学会誌(2004)第 35 巻別号)</li> <li>・介護従事者および学生における園芸療法体験の意識調査(日本農業教育学会誌 第34巻別号)</li> <li>・農業の発展方向を自ら開拓する能力を備えた学生の教育(日本農業教育学会誌 第34巻別号)</li> </ul>	
園芸科	助 教	鍵和田又一	東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 同大学院農学研究科造園学専攻博士前期課程 修了(造園学修士)	造園樹木学
			業績 (学術論文等) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼす影響(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・花いっぱいおもてなしガーデニング大会(大分短期大学研究紀要 第11号)</li> <li>・西日本各県の農業系高校の現状(日本農業教育学会誌 第38巻別号)</li> <li>・ソメイヨシノの健康状態と樹幹内における菌類の動態(Vol. 9 No.1 (2005)樹木医学研究)</li> <li>・ソメイヨシノの樹勢と樹幹内における菌類の動態(Vol. 8 No.1 (2004)樹木医学研究)</li> <li>・ソメイヨシノの樹勢と樹幹内における菌類の動態(Vol. 7 No.1 (2003)樹木医学研究)</li> <li>・ソメイヨシノの健全度合～東京農業大学世田谷キャンパスを事例とした～(Vol. 6 No.1 (2002)樹木医学研究)</li> </ul>	
園芸科	助 教	宮坂綾香	東京農業大学農学部農学科 (農学士)	育種学・作物学
			業績 (学術論文等) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマト栽培における定植方法の違いが作業効率と生育・品質に及ぼす影響(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・学生が教師役を務めるプレゼンテーション型授業の試行(園芸学会 園芸学研究第9巻別冊2 2010)</li> <li>・キャンパス内の芝生管理(大分短期大学研究紀要 第11号)</li> <li>・西日本各県の農業系高校の現状(日本農業教育学会誌 第38巻別号)</li> </ul>	

(2) 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在籍者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数

(2) - 1 入学者に関する受入方針

- 1、大分短期大学の教育理念、教育目標について理解と関心がある人
- 2、農業・園芸の分野に対して深い関心を持ち、将来、学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人
- 3、それぞれの目標に向かって意欲的に学習に取り組もうとする熱意と実行力がある人

(2) - 2 入学者数、収容定員、在籍者数

(平成23年5月1日現在)

学科名		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	備考
園 芸 科	入学定員	40	40	40	40	40	
	入学者数	28	51	46	40	34	
	入学定員 充足率(%)	70	127	115	100	85	
	収容定員	80	80	80	80	80	
	在籍者数	71	78	97	87	71	
	収容定員 充足率(%)	88	97	121	108	88	

\*充足率：小数点以下第1位切り捨て

(2) - 3 卒業（修了）者数、進学者数、就職者数

(平成23年5月1日現在)

学生数		卒業年度				
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
園 芸 科	卒業者数	46	43	26	49	46
	進学者数 (うち四年制大学編入学)	10 (8)	9 (9)	7 (7)	18 (17)	10 (9)
	就職者数 (うち専門職への就職)	35 (25)	32 (28)	19 (14)	27 (26)	26 (24)

注) 専門職とは農業系公務員、生花店、園芸店、種苗会社、造園会社、医療福祉施設、JA、就農、その他農業関連企業へ就職した者をいう。

### (3) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）

別記載（「大分短期大学講義要項（シラバス）H23年度」）

### (4) 修学の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位）

#### (4)－1 修学の成果に係る評価について

単位認定は、学則及び履修規則に基づいて担当教員の責任において行われている。評価は、講義科目から演習・実習科目まで多様な科目があるので、それぞれの授業科目の形態によって評価方法が異なっている。講義形式の授業科目の単位認定は、前期・後期末の定期試験における筆記試験で認定がなされているが、筆記試験と併せて出席状況や受講態度、小テスト、レポート、課題等を加味して評価・認定を行っている。

また、平成20年度より、成績をはかる基準として GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を導入した。これまでの成績評価とあわせることで、量的・質的評価が可能となっている。各学生の GPA は履習指導の他、奨学生選考、就職推薦者選考、編入学学長推薦者選考、学業奨励賞受賞者選考等の参考データとして利用している。

#### (4)－2 卒業認定について

本学の卒業認定は、学則第13条及び、履修規則第3条に定める通り、「通算して2年以上在学し、園芸コース、農学コース共に62単位以上の単位を修得した者」が卒業できる。（専門必修科目は18科目32単位、選択科目は一般教養8科目11単位と専門75科目120単位から30単位以上修得する（H23年度））。

#### (4)－3 取得可能学位について

取得可能学位は、「短期大学士（園芸学）」である。

### (5) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

#### (5)－1 修学に係る支援について（入学前の支援について）

本学の建学の精神・教育理念は、学校案内パンフレットに学長メッセージとして記載されている。また、教育目的・教育目標や求める学生像は、学校案内パンフレットで説明し、あわせて本学のホームページにも明示している。入学者の選抜方針や選抜方法などについては学校案内のパンフレット、園芸科ホームページ、および入試募集要項に明示している。また、学校見学会や進学ガイダンスなど受験生と直接面談できる場ではできる限り詳細に説明し、理解を得る努力をしている。広報及び入試事務組織としては入試係が対応している。日頃の受験生からの問い合わせや学校見学については入試係が中心となって対応し、全職員が補助する形式をとっている。学校説明会（オープンキャンパス）については学園内の医療系専門校と共同で実施している。また、志願者や受験生には園芸科のニューズレターでの情報提供を毎月行っている。入学手続き者に対して

は、入学まで、短大の情報提供として毎月ニュースレターを送付している。また、アパートなどの資料を送付し、斡旋もおこなっている。入学後の学習のために、学生研究報告を送付し、興味を持ったテーマについて、レポート提出をさせている。

#### (5)－2 修学に係る支援について（入学後の支援について）

入学者に対しては、学習、学生生活のために入学後、二日間にわたりオリエンテーションを行い、その中でシラバスなど教科目の説明、資格取得についての説明、学生自身の進路などについて、適切な指導を行っている。さらに、学生担当職員による奨学金制度と手続きに関するガイダンスをおこなっている。また、保護者については入学式の当日に、平松学園と本学の教育方針や園芸科で学ぶ内容、資格取得の方法や費用、海外研修等について説明を行っている。また、ニュースレターを毎月保護者に送付し、資格取得や特別講義、学内の行事などを伝達し、理解を得ている。

科目選択のためのガイダンスは、入学時のオリエンテーション合宿、また後期開講前のガイダンスで学年ごとに実施している。「学生便覧」や「シラバス」を活用しているので、理解はできているようであるが、ガイダンスの個別相談の際に、講義履修や取得資格について迷っている学生の相談に応じて、将来希望する進路に必要な科目、資格についてのガイダンスを丁寧に行っている。

基礎学力が不足している学生や進度の早い学生については、ゼミナール制度により少人数教育を行っており、その中で英検、漢検等の検定試験受験を含め、個別に指導を行っている。

また、将来、公務員や就職、4年制大学への編入学を希望する学生に対しては、教養科目の学力向上のために、月曜から金曜までの放課後に国語、生物、化学、数学、英語、社会、論述などの教養科目を特別講座としてを実施している。長期休暇中、春季休暇中には対策講座を開講して専門科目についても不足を補っている。

学生寮は女子寮のみである。寮は民間のアパートを借り上げ使用している。原則として、女子学生の入寮希望者は全員入寮できるようにしている。

#### (5)－3 進路選択に係る支援について

本学の進路支援は、学生部就職担当教員と各ゼミナール教員、事務職員が連携して行っている。毎月1回、ゼミナール教員は所属学生との進路面談を行うほか、必要に応じてその都度個別にも進路指導を行っている。大型連休や夏期休暇、冬期休暇直前等には進路希望調査を行っている。進路希望調査はゼミナール毎に面接とアンケートにより行い、アンケートは就職担当教員に提出してもらっている。アンケートは進路活動状況表にまとめ上げられ、各教職員に配布、全教職員の間で情報交換を行って全学的に学生の進路支援をしている。

平成20年度からは、社会人に必要な基礎的な態度・マナー、知識、能力を総合的に習得することを目的に、新たにキャリアアップセミナーⅠ・Ⅱ（各1単位、必修）を授業に取り入れている。（平成22年度より「進路支援Ⅰ・Ⅱ」に科目名称変更）

本学3階フロアの一角には就職資料コーナーを設置し、学生に対し就職関係の資料

の閲覧ができる環境を提供している。また、個々の学生に対して進路希望調査結果をもとに希望進路に合致した求人を紹介したり、各県で実施される企業合同説明会等の紹介を行ったりしている。

#### (5)－4 心身の健康等に係る支援について

学生の健康管理は、毎日の出欠状況を重視し、学生本人と教員間で連絡を密にとりあっている。具体的には、毎時間、講義ごとに出欠をとり、出欠状況を把握している。朝から休む学生については、欠席する理由を学校に連絡し、欠席届を提出するよう指導している。本学が小人数の短大であり、全学生に目が行き届くこと、二十歳前で親元を離れてきている県外からの学生が多いゆえに健康管理を重んじていること、専門職業人・社会人としての事前教育も重んじていることから、学生との連絡を徹底している。これにより、学生個々の健康管理は日々把握できている。また、必修科目である「進路支援Ⅰ（1年生）」、「進路支援Ⅱ（2年生）」の時間を利用して、定期的（月1回）に面談を実施し全学生の健康管理・メンタルケアをカバーしている。

セクシャルハラスメントについては、学内生活で、特に女子学生が悩まないように、女性の教員および事務員を選任して相談窓口として配している。

#### (6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

園芸科では、「農学コース」、「園芸コース」、「編入学コース」の3つのコースを設置している。「編入学コース」は、「農学コース」と「園芸コース」に併設されている。「農学コース」には、さらに「農学専攻」と「林学専攻」とがある。

「農学コース」は、本学の園芸科の特徴を活かして農学・林学全般における専門知識を学び、身近な地域環境のあり方を考えながら、地球環境問題の重大さを学び、そして、地域社会に貢献できる農林関係分野の公務員（国家公務員・地方公務員）を目指す。

「園芸コース」は、生産園芸（花卉・野菜・果樹）・作物・フラワー装飾・造園・ガーデニング・園芸療法・バイオテクノロジーについての専門知識と技能を学び、地域社会に貢献できる農林関係分野の専門技術者を目指す。

「編入学コース」は、4年制大学編入学を目指す。

なお、単位認定科目の他に、「資格取得講座」、「公務員・就職・4年制大学編入学対策講座」といった目的別サポートカリキュラムを設けている。

#### 各コース別 履修科目ガイドライン

園 芸 コ ー ス	生 産 園 芸	花 卉 ゾ ー ン	花卉園芸学総論	切り花	鉢物	花卉装飾学	農業学	園芸材料学	施設園芸学
			農業機械学	農業経済学	応用昆虫	植物病理学	環境保全学	管理実習	生物統計学
	野 菜 ゾ ー ン	野菜園芸学総論	野菜茎葉菜類	野菜果菜類	野菜根菜類	農業学	園芸材料学	施設園芸学	
		農業機械学	農業経済学	応用昆虫	植物病理学	環境保全学	管理実習	生物統計学	
	果 樹 ゾ ー ン	果樹園芸学総論	常緑果樹	落葉果樹Ⅰ	落葉果樹Ⅱ	農業学	園芸材料学	施設園芸学	
		農業機械学	農業経済学	応用昆虫	植物病理学	環境保全学	管理実習	生物統計学	
	花 卉 装 飾 ゾ ー ン		花卉園芸学総論	花卉装飾学	花卉装飾学演習	デッサン	色彩学演習	CAD演習	

		フラワー演習 I～IV	生花 I～IV					
造園ゾーン	造園学総論	樹木学	造園材料計画学	造園施工管理学	造園維持管理学	造園製図 I II		
	植物生理学	植物生態学	測量学	測量学演習	管理実習	樹木医学		
	ガーデンデザイン 論 I・II	ガーデンデザイ ン演習 I・II	生物統計学	地被植物学				
園芸療法ゾーン	介護理論	作業療法	理学療法	園芸療法 I	園芸療法 II	香りの心理		
	ガーデニング概論		老人福祉	障害者福祉	生物統計学			
農学コース	農学専攻ゾーン	作物学	植物生理学	植物生態学	遺伝育種学	栽培学汎論	農業機械学	生物統計学
		農業経済学	応用昆虫	植物病理学	畜産学 I・II			
農学コース	林学専攻ゾーン	造林学	林業経営	林業政策	林産加工	林業土木	測量学	測量学演習
		植物生理学	植物生態学	樹木学	樹木医学	生物統計学		

### 目的別サポートカリキュラム

資格取得講座	室内園芸装飾技能士・造園技能士・フラワー装飾技能士講座 毒物劇物取扱者受験準備対策講座 測量士補受験講座 造園施工管理技士受験講座
公務員・就職・ 4年制大学編入学講座	夏期・冬期・春期受験対策講座 前期・後期受験対策講座

### 3. 財務情報

前年度の財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監事の監査報告書  
別記載（平松学園ホームページにて公開）